

田中かつひろ

地方創生とまちづくりを考える



近年、わが国の社会経済情勢の課題は、少子高齢化や人口減少、環境問題や環境への配慮、自動車の普及による交流促進や地域間競争、産業の海外流出や経済活動の減退のほか、巨大地震をはじめとする大規模災害など多岐に渡っており、都市計画やまちづくりでの対応が求められています。そこで、これらの社会情勢に関する課題に対して津市のまちづくりが留意する事柄に言及したいと思います。

少子高齢化や環境問題に対応したまちづくり

人口減少、少子高齢化の影響による社会保障費の増加や景気の低迷による税収不足を背景として、自治体の財政状況は厳しさを増しています。このような状況から、効率的な都市基盤整備が求められています。わが市においても既存施設の維持のみならず、新たな都市基盤施設に対する投資が充分にできなくなる可能性もあります。また、環境問題については、低炭素社会への取り組みをはじめとして、自然環境に対する負荷の小さな社会の仕組み作りが求められています。

さらには、津市には雲出川や安濃川など、水と緑の豊かな自然環や基幹産業である農業が織りなす田畑の景観も市内各地に見られます。これまで以上の環境面への配慮が求められます。自然環境や農業環境などの保全を図りつつ、同時に計画的に市街地の整備を考えます。社会情勢が複雑化し、多様な情勢に配慮しながらうまくバランスを取り、まちづくりを進めていくことが求められます。



地域資源を活かしたまちづくり

津市においては、JRや近鉄の鉄道網と、東名阪道や伊勢自動車道、また中世バイパスといった道路交通も発達し、名古屋、大阪へのアクセスもよい。私たちの日常生活圏も拡大が進んだことから、積極的な産業誘致や買い物客、観光客を取り込むための施策が講じられています。

また、雲出川や岩田池、などの水辺空間、山林、農地など自然的資源や、北畠神社や津城跡などの歴史を伝える資源が数多く点在しています。これらの地域資源を活かすまちづくりを進めることで、賑わいや経済的効果を創出すると同時に、魅力ある街となり、定住促進へとつなげることが必要です。

福祉のまちづくり

少子高齢化が進む中で、市民が不自由なく暮らせることが重要であり、また、道路や公共施設のバリアフリー化も推進しなければなりません。

歩道での点字表示板の点検、凸凹、また、小中学校や老人福祉センターのバリアフリー化は早急に必要と思います。



私たちは、障がい者や高齢者の問題を自らの問題として捉え、身近なところから自分のまちを点検し、地域における福祉のまちづくりの推進者として、協働して思いやりのある地域社会を作り出していきたいと思えます。

さらには、地域助け合い運動や緊急時の対応に必要な隣人や協力員の活動など、多彩な人々により展開されているきめ細かい取り組みは、福祉サービスの量と質を一段と充実させることです。